

2026 年度 特別養護老人ホームネバーランド事業計画書

<事業の種類>

- ・ 介護老人福祉施設 定員 62 名
(以下「従来型特別養護老人ホーム」という。)
- ・ 短期入所生活介護 定員 10 名
(以下「ショートステイ」という。)
- ・ 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 定員 20 名
(以下「ユニット型特別養護老人ホーム」という。)

<運営方針>

- ・ 入所者の個性が発揮でき、その人らしい生活が送れるよう入所者本位の生活支援を行う。
- ・ 入所者の個性、能力を把握し、ADL（日常生活動作）の維持向上に努める。

<SWOT分析>

【強み】（自事業所のもつ強み）

- (1) 従来型特別養護老人ホーム、ショートステイ、ユニット型特別養護老人ホームがあり、部署内で入所者対応や、職員の助け合い等、柔軟な対応ができる。
- (2) ショートステイの祝祭日の送迎も、基本的には断ることなく柔軟にできる。
- (3) 機能訓練指導員が専任でおり、入所者の状態に応じて個別機能訓練計画を作成し、日常生活を営むのに必要な身体機能を改善、又はその減退を防止するため、当該計画に基づき、個別機能訓練を行っている。
- (4) ユニット型特別養護老人ホームは、従来型特別養護老人ホームの併設施設であるが、単独の建物である為、人の出入りの少ない静かな環境で生活を送ることができる。
- (5) 従来型特別養護老人ホームの多床室を、間仕切りカーテンから固定された壁と可動式の扉に変更した為、多床室であってもよりプライバシーに配慮した生活を送る事ができる。
- (6) 簡易陰圧装置の導入により、新型コロナウイルス感染症等の感染拡大防止に活用できている。

【機会】（自事業所にとってビジネスチャンスとなる要因）

- (1) 法人全体で、様々な利用者ニーズに対応できるサービス（部署）があり、利用者の最終的な受け皿として特別養護老人ホームがある。

- (2) 特別養護老人ホーム入所者が入院を機に、胃瘻や在宅酸素等、医療的なケアが必要になった場合であっても、療養型病院に転院する事なく、可能な限り特別養護老人ホームでの受け入れを行っている。
- (3) 看取りに関して、病院で積極的な医療を望まず、施設で最期を迎えたいと家族が希望された場合、入所者の状態や家族（親族代表）の終末期に関する意向を確認した後に、嘱託医の協力のもと多職種協働を図りながら看取り介護を適宜行っている。
- (4) ユニット型特別養護老人ホーム2階のバリーホールを利用し、大きな行事・イベントができる。
- (5) ショートステイの緊急利用であっても、利用者家族・ケアマネジャーのニーズに柔軟に対応し、利用に繋げている。

【弱み】（自事業所が抱える弱み、弱点）

- (1) 職員数が多く、教育や情報共有に時間を要することがある。
- (2) 介護職員の介護技術・知識にバラツキがみられる。

【脅威】（自事業所にとって、障害や困難ピンチとなる要因）

- (1) 特別養護老人ホームに代わる長期利用が可能な事業所が増えている。（有料老人ホーム、他事業所グループホーム等）
- (2) 度重なる介護保険改定により介護報酬収が低下している。
- (3) 施設の修繕費が増えている。
- (4) 福祉業界全体で人材が不足している現状にあるなか、当施設においても職員募集をしても欠員補充が円滑に行えない状況にある。
- (5) 新型コロナウイルスやインフルエンザウイルス等の感染症に罹患すると、入所者の重症化リスクも高くなる。また、ショートステイは、サービスを制限する事になる。

<事業計画>

1、基本サービス

① 食 事

- ・ 季節を感じる行事食等を行う事により、五感を刺激し、見た目・味覚共に楽しみとなる食事を提供していく。
- ・ 嚥下機能の低下している方に対し、その時々状態に合わせた適切な食事形態の提供や、介護食品の高カロリーゼリーを提供し、誤嚥性肺炎の予防を図りながら必要栄養量の確保を行う。

② 入 浴

- ・ 個々の身体状態や希望に応じた、個浴またはチェアー浴での定期的な入浴を実施する。またプライバシーに配慮し要望に応じた柔軟な対応（時間変更等）を実施し、心と体のリフレッシュを図る。

③ 排 泄

- ・ 個々の排泄パターンを把握し、ADL（日常生活動作）能力に沿った介護・排泄用品を使用する事で、排泄の自律と清潔を保つと共に、臭い対策にもつなげる。

④ 健康管理

- ・ 日々、身体の状態把握や、排便状態、定期的なバイタルサインの確認を行い疾病の早期発見と受診等を支援する。
- ・ 年1回の健康診断の実施と、嘱託医・協力医療機関と連携して健康管理に努める。
- ・ インフルエンザ流行期前（11月頃）、インフルエンザの予防接種を実施する。
- ・ 感染症対策として感染源の進入防止と、入所者・職員の罹患の早期発見に努め、感染の伝播、拡大を防ぐ。

⑤ 新型コロナウイルス、インフルエンザ等の感染症対策

- ・ 3つの密（密閉、密集、密接）を避けるよう、利用空間は常時換気を行う。
- ・ 食堂や玄関ホール等、紫外線空気除菌装置（エアーリア）の活用を継続する。
- ・ その他、職員のマスク着用、手洗い、消毒の徹底や、入所者の必要時に応じた、マスクの着用、消毒等行う。
- ・ 発熱、せき、のどの痛み等の症状があれば、職員は出勤を控え、入所者は居室で過ごして頂くなど、感染を広げないようにする。
- ・ 新型コロナワクチン、インフルエンザワクチンの予防接種を定期的に行う。
- ・ 感染症流行時は、家族会行事等の行事内容の変更や日程変更を行い感染予防に努める。

⑥ リハビリ

- ・ 機能訓練指導員により個別機能訓練計画を作成し、歩行訓練や関節可動域訓練等を定期的実施する。
- ・ 職員は個別機能訓練計画を確認し、個人ごとのリハビリ目的を理解する。

⑦ ユニット型特別養護老人ホーム

- ・ 入居前の居宅における生活と入居後の生活が連続したものとなるよう配慮しながら、各ユニットにおいて入居者が相互に社会的関係を築き、自律的な日常生活を営むことを支援する。
- ・ 各ユニットが、明るく家庭的な雰囲気を有し、入居者がそれぞれの役割（食事の盛り付けや、洗濯物たたみ等）を持って生活を営むことができるよう配慮する。
- ・ 「愛ある居心地の良い家庭」を目標に、一人ひとりの状況に寄り添った個別ケアや個々のニーズに対応した、きめ細やかな対応を行う。

- ・ 多彩な行事等を実施していく事で、日々楽しみある生活が送れるよう支援を行う。
- ・ 運営推進会議を2カ月に1回開催し、入居者家族、地域包括支援センター職員、地域の代表者等に対し、提供しているサービス内容等を明らかにすることで、地域に開かれた事業所を目指し、サービスの質の確保を図る。

⑧ ショートステイ

- ・ 日曜、祭日の送迎体制等を整え利用者や家族の要望に応える。
- ・ 新規利用者については、関わりやコミュニケーションを密にとることにより不安や困りごとの解消に努め、定期利用に繋がるよう施設に馴染んでいただく。
- ・ 緊急利用に対して、柔軟に対応し可能な限り受け入れを行い、感染症にも気を付ける。

⑨ その他

- ・ 毎月の誕生会担当を決め、月ごとに趣向を凝らした誕生会を実施し、皆で楽しみながら、誕生者を祝う。
- ・ 毎月家族に対し、入所者の写真入り手紙を郵送し、生活の様子を伝える。
- ・ 備品の節約の為、必要物品は計画的に買い、福祉車両や福祉用具等の助成金が使えるところは積極的に使う。また、備品は大切に使用し、不具合があればコスト意識を持ち購入や修理等方法を検討する。
- ・ 事故防止委員会と安全対策担当者（生活相談員）を中心に、年2回の事故防止研修の実施し、事故を未然に防ぐために必要な予見知識の習得に努める。またサービス担当者会議を利用して個々のリスク管理と情報の共有を行う。
- ・ 入所時に、「特別養護老人ホーム利用のリスク」の説明を家族に行い、リスクに関する理解を得るようにする。

2、入所者の日課

- | | |
|--------------------|-----------------|
| ・ 7：00 起床、洗面、着替え等 | ・ 14：00 ラジオ体操第2 |
| ・ 7：45 朝食 | ・ 15：00 入浴、おやつ等 |
| ・ 8：50 ラジオ体操第1 | ・ 17：30 夕食 |
| ・ 10：00 喫茶 | ・ 19：00 着替え等 |
| ・ 12：00 昼食 | ・ 20：30 消灯 |
| * 第3木曜日・・・・・・誕生会 | |
| * 月1回（不定期）・・・・訪問美容 | |

3、行事計画

① 施設行事

- 4月 加西フラワーセンター外出
5月 こいのぼり見学【グリーンエコー笠形】

- 6月 ネバーランドアニバーサリー（家族会行事）、慰霊祭
- 7月 七夕会
- 8月 すいか割り、かき氷作り、夏祭り
- 9月 花火大会【施設第1駐車場】、敬老会（家族会行事）
- 10月 地域の屋台来訪見学
- 11月 紅葉外出
- 12月 クリスマス会
- 1月 正月遊び
- 2月 節分行事
- 3月 観梅、お花見会（家族会行事）

※ 感染症（新型コロナウイルス、インフルエンザ等）対策により行事計画は変更する場合があります。

4、年間目標

①（従来型）特別養護老人ホームの平均利用人員

- ・ 1日平均、59名／62名（平均稼働率95.2%）以上を目標とする。
【2026年1月末現在の実績 平均利用人員54.8名／日（平均稼働率88.4%）】

ユニット型特別養護老人ホームの平均利用人員

- ・ 1日平均、19名／20名（平均稼働率95%）以上を目標とする。
【2026年1月末現在の実績 平均利用人員18.3名／日（平均稼働率91.5%）】

<目標設定の根拠>

- ・ 従来型特別養護老人ホームは、黒字を目指した平均稼働率95%以上を目指し、目標数値を1日平均59名とした。ユニット型特別養護老人ホームも同様に、平均稼働率95%以上を目指した1日平均19名とした。

<目標達成の為の具体策>

- ・ 介護相談や入所申込み等受け付けた際は、他部署にも必要な情報共有を行い、法人全体のサービス利用に繋げていく。
- ・ 医療面に関して、普段からの健康状態の把握に加え、嘱託医への適切な報告・相談により、入所者の医療的ニーズに迅速に対応し、健康悪化時の早期発見と重症化の予防を図る事で、入院件数と入院期間の軽減を図る。
- ・ 看取り期に関して、入退院の繰り返しや、入院中の療養型病院転院までの期間等が特別養護老人ホームの空床期間延長に繋がっていたが、看取りの件数は年々増加

傾向にあり、今後も看取りケアの件数は増えていく予定である為、平均利用人員の向上を見込み、目標達成を目指す。

- ・ 従来型特別養護老人ホーム・ユニット型特別養護老人ホームにおいて、人生最後の時まで、その人らしさを維持できるよう、入所者や家族の意思を尊重し、嘱託医、看護職員、介護職員等が連携を保ちながら看取り介護を行うと共に、看取りに関する勉強会を実施する事により、終末期の在り方・考え方を学び、介護・看護職員が安心して看取り介護を行えるようにする。

② ショートステイの平均利用人員

- ・ 1日平均、9名／10名（平均稼働率90%）以上を目標とする。

【2026年1月末現在の実績 平均利用人員6.7名／日（平均稼働率67.0%）】

<目標設定の根拠>

- ・ 黒字を目指した平均稼働率90%以上を目指し、目標数値を1日平均9名とした。

<目標達成の為の具体策>

- ・ 在宅介護が困難で、特別養護老人ホームの入所希望をされている方への対応として、ロングショートステイの受け入れを計画的に行う事で、安定した業務実績を図る。
- ・ 陰圧室の活用により病院から退院された方の受け入れを増やす事で、安定した利用実績を図る。
- ・ 日々のコミュニケーションにより要望等を把握・対応を行い、利用者の満足度の高いサービスを実施し、リピーターを増やす。
- ・ デイサービス等、当法人サービスと連携し、柔軟なサービスを提供する。
- ・ 他居宅介護支援事業所と、連絡を密にして信頼関係を継続していく事で、新規利用者の獲得を継続する。
- ・ ショートステイ利用者に対し機能訓練指導員による個々の生活機能向上、身体機能低下の予防を目的としたリハビリを行う。
- ・ 従来型特別養護老人ホームに空床がある際は、ショートステイで空床利用を積極的に行っていく。